## 1．目的

　個人の側から考えた場合、望ましい社会システムの1つの基準は、その社会の中で自らの欲求がどのくらい実現できるかどうかにかかってくる。簡潔にいってしまえば、人々の幸福感が高めることができる社会は、優れたシステムとして評価される。その意味では、人々がどのような場合に幸せを感じるのか、幸福感の生成メカニズムを知ることは極めて社会学的な課題である。

　人々の幸福感は、社会経済的な要因や人間関係、性格特性などさまざまな要因に影響を受ける。今回の報告では、その中で「容姿」と幸福の関係に注目する。容姿の影響を重視することは、社会的にタブー視されている面もあるが、ある種の人々にとっては人生を左右する重要な側面である。また、人々の容姿は、個人的、社会的努力による改善が比較的困難であるため、深刻な社会問題も引き起こしており見逃せない。美容に過度な金銭・時間をかけてしまう問題や、容姿を気にすることによる拒食などの問題があげられる。

　そこで、この報告では、どのような人々が、幸福にとって容姿が重要と考えているのかを統計的に調べる。容姿を重視する人々の特徴を知ることは、過度に容姿を気にかけることによる不幸を防ぐためにも役立つだろう。また、そもそも、容姿の影響を正面から考えることがなぜタブー視されるのか、その社会的なメカニズムを考える上でも役に立つかもしれない。

## 2．方法

　分析には、2005年10～12月におこなった「中高年の幸福感についての意識調査」を用いる。この調査は、東大阪市在住の40～59歳の男女から無作為抽出した標本調査で、郵送法により246人の回答を集めた（計画標本700人、回収率35.1％）。すでに重要なライフイベントを終えている中高年が、幸福をどのようなものと捉えているのかを調べることで、理想としての人生像ではなく、ある程度リアルな実感をともなった人生の中で、容姿と幸福の関係をどう考えているのかが読み取れるはずである。

　幸福感に関係するいくつかの質問項目の中で、幸福にとって「容姿」がどの程度重要と思うかを尋ねており、「極めて重要」「とても重要」「ある程度重要」「少しは重要」「重要でない」の5段階で回答を求めている。今回の分析では、重要と思っているほど得点が高いようにリコーディングした5点満点の変数を用いる（Q03f）。

　また、この調査では、自分自身の「体力」「頭のよさ」「手先の器用さ」「容姿」「性格」の5つについて、それぞれどの程度自信があるかを尋ねている。選択肢は「自信がある」「どちらかといえば自信がある」「どちらかといえば自信がない」「自信がない」の4択で、自信があるほど得点が高いようにリコーディングした4点満点の変数を用いる（Q31a～e）。

　これらの自信度合いの変数に加えて、基本的な人口学的変数として、性別（女性ダミー）（Q01）と年齢（Q02）の合計7つの変数を独立変数として、「容姿を重視する度合い」を従属変数とする回帰分析をおこなう。この回帰分析によって、幸福にとって容姿が重要と思っている中高年は、いったいどのような種類の人々なのか、とくに自分自身の評価との関係を知ることができると期待できる。

【今回は基本的に決められた方法で、決められた回帰分析を実行するが、とくに、違った分析の仕方をしたければ、やってみてもかまわない。その場合は方法を明記すること】

## 3．結果

【回帰分析の結果を図表と文章で表現すること。最低限必要なことは、①回帰係数の読み取り、②調整済みR2の読み取り、③検定結果の読み取り。ただ数字を並べるのではなく、具体的に何がわかったことになるのか、回帰分析のことを知らない人が読んでもわかるような書き方を努力すること】

【できれば、回帰分析の前に各変数の基本情報（度数分布や平均、標準偏差など）の図表がある方がよい。余裕があれば作成して、読み取ること】

## 4．考察とまとめ

【分析結果の解釈や意味、今回の調査や分析の問題点などを考えて、文章にする。この部分は、ある程度根拠のない主観的な表現でよい。最後には、結局何をしようとして何がわかったのかを簡単にまとめ直すこと】

【もし、何か参考にした文献があるならば、書誌情報（著者・出版年・タイトル・出版社）を示す。今回は小課題なので、基本的にはそこまでする必要はない】

【別途、表紙を付けて、レポートのタイトル（自分でつける）、氏名、学籍番号、提出日、授業名などを記すこと】